



マリア館

「優しくて頼れる看護師」のイメージを大事に。

キリストの「愛と献身の精神」を掲げ、産婦人科を中心に地域医療に貢献されてきた熊本の慈恵病院。自分で育てることができない赤ちゃんを、匿名で託すことができる「このとりのゆりかご」の設置でも知られています。今回はローラ アシュレイのユニフォームをご採用いただいたご縁で、看護部長の竹部さん、副部長の本田さんに、お話を伺いました。



「このとりのゆりかご」は、命を救う最後の砦。

慈恵病院さんは、産婦人科に特に力を入れておられる印象があります。

竹部さん：当院は熊本県の周産期地域中核支援病院です。年間の分娩数が昨年は1600件、今年は1700件に達する見込みです。

本田さん：産科のあるマリア館は2011年に建て替えて、2015年に増築しています。現在は、2007年に設置した「このとりのゆりかご」もこちらの病棟に移転しました。

「このとりのゆりかご」は、どのような経緯で設置されたのでしょうか？

竹部さん：慈恵病院は明治31年の創設時から、「命を大切に」ということを理念にしています。ゆりかごの設置も、一人でも多くの赤ちゃんの命を守りたいという思いから。導入には、ドイツのシステムを参考にしています。

ドイツにはすでにそのようなシステムがあったのですか？

竹部さん：ドイツでは、妊娠葛藤相談・匿名出産・内密出産・赤ちゃんポストという4本柱で望まない妊娠をした母と子を助けています。赤ちゃんを預ける前に、相談できる窓口があるんですね。私たちも、望まない妊娠にまつわる相談をお受けする「SOS赤ちゃんとお母さんの妊娠相談」を、ゆりかごに先駆けて始めていました。

相談を受ける仕組みづくりは重要なんですね。

竹部さん：ゆりかごは、命を救う最後の砦です。ただ、その前にまず相談できる窓口が必要だと考え、24時間365日フリーダイヤルでご相談を受け付けています。

ゆりかごや相談のほかに、「こども食堂」も始められたと伺いました。

本田さん：2016年の熊本地震直後にスタートしました。ゆりかごの学びで子ども達が孤食にならないように、安心して集い食事ができる環境をつくってあげたかったんです。こども食堂の活動の一環としてパーベキューや流しそうめん、花火大会など、みんなで一緒にできるイベントも行っていきます。

竹部さん：体験は心に残りますから。ここでたくさんの人にふれて、豊かに育ってほしいと思います。

妊娠中のお母さんから子供たちまで、ずっとサポートされているんですね。

竹部さん：創設時から脈々と受け継がれるキリスト教のシスター達の慈愛の心とともに女性に寄り添い、家族に寄り添っていくのが私たちの務めです。



ユニフォームについて、患者さんにもアンケートを実施。

では続いてユニフォームについて、ワンピースを選ばれた理由をお聞かせください。

本田さん：女性らしく清廉で、責任感と親しみやすさを感じるワンピースをご推奨される声が多かったです。そこで、動きの多いオベ室や分娩室はパンツに、外来や病棟はやわらかく優しい印象のある、ワンピースを選びました。

ローラ アシュレイというブランドに対しては、どんな印象をお持ちでしたか？

竹部さん：ローラ アシュレイは、かわいく清潔で、オーセンティックだという印象です。スタッフにもローラファンが多いので、好評ですよ。

本田さん：ボタンの細工など、細かところまでの気配りが素敵ですよ。

まわりの方もけっこう反応してくださるんですね！

本田さん：患者さんからは「明るくなったね」と、看護学生さんからは「超かわいい！」と言われました(笑)。

竹部さん：若い人にも似合いますし、60代のベテランナースが着ても若々しく華やか。みんな表情も明るくなって、生き生きして見えます。

みなさん素敵に着こなしてくださって、患者さんからも好評とのこと。本当にうれしく思います。